

家族
の店21
軒目

知名オーディオ

家族の手で創り出す
唯一無二のスピーカー

文・橋本倫史 撮影・垂見健吾

そのサウンドは、初めて体感する音だった。美しいフォルムをした知名オーディオのスピーカーは、空間全体を響かせ、まるで部屋の中でカルテットが演奏しているかのような臨場感を生み出していた。

このスピーカーを創り出したのは、知名オーディオの創業者・知名宏師さん。1947（昭和22）年生まれ

の宏師さんは、幼い頃から工作が好きだった。中学生のとき、ジュークボックスから流れてきたデヴィ・ブルーベックの「テイク・ファイヴ」に感銘を受け、オーディオ作りに夢中になった。

宏師さんの両親は、嘉手納町で牛乳店を営んでいた。基地が近いため、舶来の真空管やアンプは手に入りやすかった。牛乳配達を手伝い、お小遣いを貯めては工作に没頭した。学校を出たあとはオーディオ会社に就職したのち、独立。より生演奏に近い音を追究するなかで誕生したのが、円筒型のスピーカーだった。

75年の創業以来、半世紀近い歴史を誇る知名オーディオは、沖縄を代表するオーディオメーカーとなり、スピーカーユニットは沖縄市のふるさと納税の返礼品としても人気を博している。この精巧な製品が、工場で生産されているのではなく、住居の一室を使い、家内制手工業によって手作りされているのだから驚きだ。創業者の知名宏師さんがアンプを

製作し、その妻・???さんは製品の磨き上げを担当。先代の妹・洋子さんがスピーカーを製作する。外注は一切せず、家族だけでオーディオを作り上げてきた。

2代目として知名オーディオを切り盛りする亜美子さんは、知名家に生まれ育ったわけではない。三重県は伊勢志摩の出身で、郷里で出会ったのが、初代・宏師さんの甥に当たる男性だった。

「主人と結婚してから、沖縄には毎年来てたんですけど、すごく水が合ったんです」。亜美子さんはそう振り返る。「伊勢志摩も海が近くて、漁師や海女さんが多い所ですし、捕れるものも近いところがあつて。沖縄の親戚も、気を遣わずに言いたいことを言い合える感じで、本当に水が合ったんですよ。だから、主人が沖縄に転勤することになって、私も一緒に喜んで引越してきました」。家族の輪は、結婚によって広がっ

てゆく。沖縄に引越した当初は会社勤めをしていた亜美子さんだったが、やがて知名オーディオを手伝うようになった。

「沖縄の人は、自分の道を突き詰める人が多い気がします」と亜美子さん。「先代は物作り一筋の人だから、良くも悪くも後先を考えてなくて、もしもビジネスを考える人だったら、ここまで突き詰めた製品は作れなかったと思います。私も含めて、家族全員がこのスピーカーを素晴らしいと思っているの、どうにか残していきたいと思って、仕事を手伝うようになったんです」

先代の引退にともなうて、2022年に亜美子さんが代表取締役に就任した。亜美子さんはスピーカーの製作には携わらず、営業に専念。先代の

技術を継承しようと、先代の弟で木工職人の知名進さんや、先代の次男・武さんと、その妻・泰子さんも加わり、家族総出でスピーカー作りに取り組んでいる。サウンドチェックに用いる楽曲は、昔と変わらず「テイク・ファイヴ」だ。

「このスピーカーは完成形で、どこも触る余地がないんですよ。それぐらい素晴らしい製品だから、スピーカーに手を加えるのではなく、ひとりで多くのお客さんにこの音を聴いてもらうことが大事だと思っています。今はイヤホンで音楽を聴く人が多いと思うんですけど、耳だけじゃなく、体で音楽を聴く心地よさを知ってもらえたら、と」

亜美子さんが営業に取り組むようになって、県外からも注文が舞い込み始めた。家族の手で創り出す音が、海を越えて広がってゆく。



知名オーディオのスピーカーは高さ1～2mの円筒形。空間全体に音が広がり、聴く場所を選ばない。

(有) 知名御多出横 (知名オーディオ)

沖縄市中央3の16の6 (ショールーム)
☎ 098・938・3994
<https://www.audio.co.jp/>



ショールームに集合した知名ファミリー。左から、創業者・宏師さんの弟・知名進さん、代表取締役の亜美子さん、宏師さんの妹の洋子さん、次男の嫁の泰子さん、次男の武さん。皆さんの背後にあるのがスピーカーだ。